

魅力

Creative&Action
～ We are the ActionCreator ～

雄飛

第33号 2007. 8月

発行人：鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 中田耕治 編集責任者 畠山広幸 33期広報委員会 印刷所 東京印刷(株)

ごあいさつ

第33期鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 中田耕治

第33期スローガン **「Creative & Action」** ～ We are the ActionCreator ～

テーマ **「魅力」**



鳥取県西部中小企業青年中央会 第33期会長を務めさせていただきます中田耕治です。どうぞ宜しくお願いします。今期のスローガンとテーマは地域の創造主となる様な創造的な活動を明確なビジョンのもと、視野を広げ、情報・知識・意識を共有し変化に即応出来る行動力を目指し、掲げさせていただきました。

今私たちの置かれている環境は日々メディア等で報道されている事件・事故・社会問題にあふれています。もう一度、道徳心から考え直さなければならぬ事ばかりです。そして広がる地域間格差、景気は一部の地域のみ良さが強調され、この山陰には無縁とも思える中、私たちは青年として青年経済団体として、何を思い・描き・行動していくか、日々考え行動していく事が急務であります。

私たちは青年としての特権「自由な発想と大胆な行動」という青年中央会スピリッツを再度認識し行動し、何事にも果敢にチャレンジしていきたいと思えます。私は先輩方から良く聞く話の中で、青年中央会は「大人の会である」「野武士の会である」との精神をよく思い起こします。「大人の会である為には?」「野武士の会である為には?」と自らの行動の根本的なところから考える事が、今の時代だからこそ必要であると考えます。

私たちが、この地域（鳥取県西部を中心とした地域）に根差したオピニオンリーダーである為の旗印として「We are the ActionCreator」をサブタイトルとしてスローガンに添えました。

私たちが青年中央会として活動していく中では、決してマスターベーションの活動にはなりません。活動を周囲の方々にも青年中央会の魅力を感じていただく為にも、実のある活動を目指さなければなりません。青年中央会は志を持った会員の集団です。誰もが何かしら勉強になれば、何かしら会社に持ち帰りたいと考える会員ばかりです。その1人1人の魅力を集め、魅力ある委員会を行う。それがまぎれも無く青年中央会の魅力へとつながります。そこから、「どうして青年中央会は元気が良いのだろうか?」元気な会社には「青年中央会の会員が居るのだ。」と思われるような会を目指してテーマの「魅力」を掲げています。私たちは私達の英知を集め、本気と本気のぶつかり合いから生まれる友愛を深め、団結して「Creative & Action」のスローガンの下、先輩方が築かれた歴史と伝統に習い新しいページをまた一枚増やしていく所存ですのでご指導ご支援の程、宜しくお願いします。

副会長抱負



北口智明

地域ビジョン・環境問題・会員力（窓口）

第33期中田会長の下で、3委員会を担当させていただきます、副会長の北口智明です。

本年度のテーマである「魅力」を基本理念として、地域ビジョン委員会は「県西部の魅力ある未来像の模索」、環境問題委員会は「地域を取り巻く魅力ある環境資源の再考察」、会員力委員会は「魅力溢れる会員企業同士の交流促進」と、それぞれの委員会活動の中で議論すべき内容は盛りだくさんです。委員長ならびに委員会メンバーが、個々のバイタリティを発揮し、忌憚のない意見を出し合っていたきたいとおもいます。各委員長が実力を存分に発揮できるよう、全力でサポートしていく所存です。微力ながら精一杯頑張りますので、どうか一年間よろしくお願いたします。



畠山広幸

広報・政治行政

今期副会長を拝命いたしました。1年間よろしくお願いたします。担当は広報委員会と政治行政委員会です。広報委員会は今一度「広報の目的」を委員会で議論してもらい、目的を果たすうえで必要な手法やルールを再確認してもらいたいと考えています。政治行政委員会には、自由な発想と大胆な行動がとれる青年経済団体として、政治行政とのかわりの中で、私たちのくらしやビジネスに変化の渦を是非作り出して欲しいと期待しています。石川委員長、松江委員長お二人とも意欲的なビジョンを掲げておられます。「創造(想像)・行動・魅力」のキーワードのもと、両委員会の活動が確かな足取りとなれるよう、精一杯支援したいとおもいます。



増井幸一

ビジネス・魅力アクション

会は、会員の皆様があるからこそ会であり、それぞれ個性があるからこそ刺激になり「魅力」を感じます。何い考えるだけでなく、心と心をぶつけ合い行動に移さなければ、何も進みません。一歩でも踏み出せば必ず新しい何かが見つかり、次は何をすれば良いのかが見えてきます。それが出来るのが青年中央会の良いところだとおもいます。

若輩者ではありますが、副会長として諸先輩の残された歴史を正しく認識し、これからの時代に合った発想や行動を委員長並びに委員会メンバーが胸を張ってできるように、全身全霊で支えて行きたいとおもいます。

この大役に、日々緊張感が増しております。私自身もまた新たな勉強です。どうぞよろしくお願いたします。



後藤公平

総務（事務局長）

中田会長より副会長ならびに事務局長の職を拝命しました後藤です。皆さん、1年間よろしくお願いたします。

無から有を作りあげるときや経験が何の役にも立たないときなどに必要な「蛮勇」。何かを継承していこうとするときや守るべきものを持ったときなどに必要な「知勇」とか「蛮勇」は「知勇」を指して「臆病」とか「旧態依然」と評し、「知勇」は「蛮勇」を指して「享乐的」とか「傍若無人」と評します。ただし、「知勇」に重きを置きすぎると座して死すことも。反面、予測や計画を軽視し、または立てずに「蛮勇」に重きを置きすぎると待っているのは派手な討ち死。不偏なるバランス感覚が極めて重要になってきます。

応用を利かすことが難しい一期一会的な「蛮勇」と、経験として歴史の中に編み込んでいける「知勇」。この2つの「勇気」の使い分けを意識し、また実現できるようこの1年務めてみたいとおもいます。

新入会員 トライアスロンに参加して

volunteer

環境問題委員会 永田健司

総会後に須山さんから笑顔で太鼓を渡され、何をどうするかよくわからないままスタート！宮崎さん、家高さんへのエールで始まり、ASでは植田部長の指示で皆さんが手際よく準備しておられ、オロオロ状態。とにかく邪魔でも皆さんについていだけで精一杯。ポイントでは選手に声援しているうちに私もハゲまされているような、とても清々しい一日だった。参加して中央会の団結をさらに感じる事が出来た。ありがとうございました。

広報委員会 朝原直也

7月に入会していきなりのボランティア参加が心配だったのか、気を利かせてくれたのか、台風の影響で一部短縮してのスタートとなりました。私自身何をすればいいかわからず、ただ右往左往するだけでたいした手伝いもできずに終わってしまいましたが、選手の皆様のパワーや中央会の団結力を改めて実感させられた一日になりました。朝早くから夜遅くまで大変でしたが、いい経験になりました。来年はもっと役に立つよう頑張りたいとおもいます。

総務委員会 竹谷友成

今回は10数年ぶりにASの仕事を手伝わせていただきました。ASの仕事やポイント立ちで、久しぶりに選手が走るのを目にして、声をかけることが出来、また選手と共に天候とも戦うことで、これぞトライアスロンのボランティアという一日を味わうことができました。不思議なもので、小さい頃に大山乳業アイスにつられてボランティアをやったのを覚えていたようで、同じASで子供達が大人に負けず元気に活動しているのを見て、「自分も子供の頃はあんな感じだったのかなあ？」と一人感慨に耽ってしまいました。今後も大人だけでなく、お祭り感覚で参加した子供達が楽しい一日を過ごしてくれれば、将来のトライアスロンを支える人材が育ち、皆生トライアスロンの未来も明るいのではないかとおもいました。

広報委員会 山口啓一郎

初めてのトライアスロン大会、右も左も分からぬまま、広報のカメラ係として宮崎会員を追い掛け、スタート地点からAS、そしてゴール地点と駆け廻りました。最後はゴール直前でポイントに立ちましたが、雨の中必死にゴールを目指すランナーの姿に心を打たれ、大声で「頑張れ！ゴールは目前です！」と叫び続けていました。このような素晴らしい大会を長年後援している中央会の伝統・そしてパワーを改めて感じました。初のトライアスロン大会は“雨のち心は晴れ晴れ”。清々しい気分の一日となりました。

環境問題委員会 内田隆嗣

台風一過の晴天の期待も虚しく、夕暮れ時を過ぎても梅雨特有の気だるさの中、雨脚は更に強くなっていった。スイムが中止になるという最悪のコンディション。それでもアスリート達の眼差しは常に前を向いている。土砂降りの中で、それぞれの役割を果たしながらボランティアスタッフは彼等の背中に精一杯の声援を送る。その声援に背中を押されるように彼等はゴールに向けて一歩一歩と確かな足取りを刻んでゆく。そこには揺るぎない一体感があることを、初参加ながらレインコート越しに実感した。本気になる者、必死になる者に共感し、自然と支えたいという感情が湧く。そこにはともすれば忘れがちな大切な物がある。改めて中央会に入会できたことに感謝した。

環境問題委員会 内藤幸一

台風の接近により当日まで開催が危ぶまれていましたが、まさに「雨にも負けず」鉄人レースがスタートしました。私はボランティア活動に参加するのも初めてでした。ポスター貼り・備品洗い・ポイントでのランナー誘導等だけで、本レースに大きく貢献できたわけではありません。ただ選手の息遣いを聞きながら、会員の方々と一緒に声を張り上げていると、改めて中央会の良さを感じました。また選手の皆さんからは「勇気」みたいなものをいただけた気がしました。米子での楽しみがまたひとつ増えた、そんな一日でした。

～トライアスロンそれぞれの熱い1日～



選手でにぎわう市民の森AS



おつかれ様でした



懇親会



総会・卒会式に続き、多数の来賓・OBにも出席いただき、懇親会が開催された。

手島総務委員長の司会のもと、第33期中田会長が今年度スローガン「Creative&Action」について「地域の創造主として行動する会にしていきたい。環境は楽ではない、青年経済人として何を考え、どう行動するかが今こそ正に問われるとき、自由な発想と大胆な行動

で、地域のリーダーたる活動をしていきたい。そして魅力ある人間が集まる魅力ある中央会を創りたい。」と力強く所信を表明された。

来賓の挨拶の後、藤井副知事の乾杯で懇親会スタート。各テーブルでは新委員会での抱負を語り合い、またOBとの旧交を温める姿がいたる所で見られた。

懇親会はトライアスロンの壮行会、新

入会員紹介、委員長の抱負をはさみ、現役会員・OB会員の相互の交流を深めた。閉会時間も迫り中村境港市長の中締めの挨拶をいただき、最後は卒会者を1人ずつ胴上げして送り出した。

こうして懇親会は大盛況のうちに幕を閉じ、中央会の19年度は元気一杯でスタートしたのである。



壮行会

懇親会の中、トライアスロンの壮行会が行われた。佐々木団長率いる応援団が登場し、大会出場を3日後に控えた宮崎大介会員に壮行のエールが送られた。宮崎会員はまずボランティアに感謝の言葉を述べ、そして大会にかける熱い決意を語った。

そして応援団のはからいで、新年度の船出となる中田新会長へもエールが送られた。



33期委員長抱負

会員力委員会

山本 徹



この度『会員力委員会』委員長をさせていただくことになりました。①会員相互の認知度をアップし、相互メリットを考察する②対外的な西部青年中央会の認知度の拡大③新入会員のオリエンテーションの開催④レクリエーション例会の開催⑤会員拡大会議の開催と2ヶ月に1回の割合で行事がある盛り沢山の委員会を、中央会内での企業相互の交流の活性化と会員の拡大を目的とします。

委員長経験者が7人もいる、強力な自慢できる委員会メンバーなので、一味違った面白いこと、奇抜なことをドンドンやっていきたいと思っています。1年間頑張りますので皆様のご協力、ご指導の程宜しく願っています。

環境問題委員会

小椋崇永



今年度、第33期環境問題委員会の委員長をさせていただくことになりました。

中田会長よりお話をいただいたときは『いい・委員長!!!』と正直驚きが、さきでした。さらに、『環境問題委員会』とこれは今まで一度も経験が無い。しかし、これまで中央会に入会して自分なりに勉強させていただいたことを少しでもお返しできればとおもいます。

環境問題とくに地球温暖化は今や日本・全世界で叫ばれておりますが、あまりにも大き過ぎるのでそれは頭の片隅に置きながら、当委員会は地域の環境問題を考え「環境資源の保全と活用」と題して、自分たち住んでいる地域資源を守り・活用していきたいとおもいます。すばらしい委員会のメンバー並びに当会会員の皆さん、一年間立派に務めたいとおもいますのでよろしくお願いいたします。

魅力アクション委員会

加藤典史



この度、魅力アクション委員長をさせていただきます加藤典史です。

今年中央会活動12年目にして委員長という大役を与えていただき、身の引き締まるおもいです。

中田会長のスローガン『Creative&Action』を実践し、鳥取県西部を中心に地域の魅力を創造・発掘し行動することを目的に委員会活動を展開したいとおもいます。

観光・自然・人・物・歴史・娯楽そして産業などさまざまなジャンルからこの地域の魅力を委員会のメンバーと共に探したり、実際にしてみたり、また考察してみたいとおもいます。

その中で再度会員同志の親睦を図り、人間味のある中央会づくりを目標に頑張りたいとおもいます。

どうぞ一年間よろしくお願い致します。

広報委員会

石川達也



第33期広報委員会の委員長を務めさせていただきます石川です。昨年副委員長としていろいろな事を学ばせていただいたことをもとに、自己研鑽の場として精一杯務めさせていただきたいとおもいます。さて、広報委員会は広報誌の編集・発行、ホームページの運営管理などがあります。それぞれ対内的に情報共有、発信に重要な役割をもちますので、充実した紙面づくり、ホームページの整備、活用・利用法を模索していき、様々な形で対内外に情報発信を目指して活動していきたいとおもいます。委員会メンバーをはじめ会員の皆様、一年間よろしくお願い致します。

会計担当理事

第33期会計理事を務めさせていただく中村臣成です。

第32期中康裕会計担当理事の下で、見出された様々な諸問題を解決すると同時に、親会から財政的に自立した、当会独自の会計体系の更なる構築を目指し活動に注力したいと考えております。会員の皆様から納入いただいた会費が、事業計画書(案)並びに収支計画書(案)

地域ビジョン委員会

松原 毅



第33期地域ビジョン委員会の委員長を務めさせていただく松原です。

本年度の地域ビジョン委員会は、委員会員のための委員会であることを基本に「食」をテーマに活動します。地元の食について考え、各自がひと月ずつ委員会を受け持ち地元の食材を用いて特色のある鳥取県西部地区の名物の開発、また観光客にどのように認識してもらおうか企画し、「食」を通じて地域おこし・町おこしに取り組んでいきたいとおもいます。

委員会メンバーと一緒に「飲んで」・「笑って」・「語れる」有意義な委員会に行きたいとおもいますので、一年間よろしく願います。

ビジネス委員会

佐々木雅彦



第33期ビジネス委員会の委員長を務めさせていただくことになり、その重責に身の引き締まる思いと共に、微力ですが魅力ある委員会づくりをしていきたいとおもっています。

委員会テーマは、「Business Information 商売繁盛を目指して」としました。テーマの中のインフォメーションには、知識、案内所、情報等の意味がありますが、それぞれを活動の中に盛り込んでいこうと考えています。その上で会員の商売が少しでも繁盛する事を目指して行動し、出来るならば会員間のビジネスマッチングにより将来の地域経済の発展に繋がってくれたらと心におもっています。

一年間宜しくお願致します。

政治行政委員会

松江智雄



入会して7年目にして委員長という重責を担い責任感の大事さを感じています。歴史ある政治行政委員会ということで、いままでの歴代の委員会にはなかった新しいこととしていきたいし、なおかつ良かったところは残していきたい、そんな欲張りな委員会を作っていきます。

会に在籍してから今日まで委員会に求めてきたものが、自分の委員長の間にどれだけ出せるかわかりませんが、限界まで挑戦していきます。もちろん自分ひとりの力では出来ません。委員会のメンバーがひとつとなって、トライしていきたいものです。

最後にみなさんにもご苦勞をおかけするかもしれませんが、一年間よろしくお願い致します。

総務委員会

手島武司



中央会魂とはなんですか？

仮に私たちが

株式会社 鳥取県西部青年中央会 総務部の社員だとします。私達は現在の総務部を、

1. 何から改善のメスを入れますか？
2. どのようなことを33期総務部として後輩に、足跡を残しますか？と始めた1回目の委員会でした。

システムや方法論は時代の変化によって変わらなければなりません。

しかし志まで変わる必要は無いはずで。

よって今年の総務委員会のテーマは「改善と足跡」とします。

基本理念は「中央会魂」です。

一年間よろしくおねがいしますね(^_^)

中村臣成



通りに執行されているかどうかを、全会員の皆様と共に随時チェックする事から始めようとおもいます。そして、会計と数字に強くなり、諸々の業務や活動に生かせる内容を目標に掲げ一年間やり遂げる所存であります。

また、会費の「期限内納付」のご協力を何卒よろしくお願い致します。

通常総会・卒会式・懇親会開催

日時:平成19年7月12日(木) 18:15～ 場所:ホテルサンルート米子

平成18年度(第32期)の締め括りとなる通常総会が開催された。冒頭福田会長より「元々中央会は野武士の集団、野武士魂をもって設立された。野武士が一国一城の主となるためには努力を惜しまないこと。そして個の成長を通じてビジネスの発展、地域の発展に貢献し、天下を取る。この魂を受け継いで欲しい」と正に中央会の原点とは何かを問いかける挨拶があった。

続いて新入会員の朝原直也会員にバッジ・手帳の授与が行われ「縁を感じる」との挨拶があった。



決議事項に移り水副会長の議事進行のもと、第1号議案「H18年度事業報告、並びに収支決算の件」、第2号議案「H19年度事業計画、並びに収支予算の件」が満場一致で可決された。

続いて長年の中央会活動における功績を称えて、第31期武海直前会長に特別功労賞と感謝状が贈呈され、「皆様のおかげで



13年やってこれた。この感謝状は全員のもの」との挨拶を述べられた。

皆勤賞(21名)・精勤賞(22名)へ会員表彰が行われた後、恒例の優秀委員会の表彰が行われた。

・トライ&チャレンジ賞

夢委員会 何でも好きなことをやっているという、難しいテーマに取組んで挑戦し、独創性溢れる例会・新入会員オリエンテーションを開催した。

・優秀賞

政治行政委員会 他の青経連とも連携し、米子駅の南北一体化という大きなテーマに取組み、実現への確かな一歩を記した。

地域スクラム委員会 SC鳥取のJリーグ昇格による地域の活性化という夢のあるテーマに取組み、知事宛の提言書を完成させた。

・最優秀賞

わくわく発掘委員会 ハードな内容によ



く取組み、次から次へと新しい発掘を行い、地域の価値を改めて気づかせてくれた。

受賞した委員長からそれぞれ感動と興奮、そして会員への感謝に満ちた挨拶の後、最優秀賞委員会の増井委員長から「皆さんの理解・参加があったからこそ盛り上がり、自信がもてるようになり、次の発掘へとつながっていった」との受賞の弁があり会場から盛大な拍手が送られ、興奮の冷めやらぬなか総会は無事閉会となった。



卒会式



通常総会に引き続き、19時から晴れて青年中央会を旅立られる、4名の会員の卒会式が行われた。

卒会者の紹介の後、福田会長が卒会者の長年の功績を称え、『長い間おつかれさまでした』と挨拶。続いて、卒会証書と記念品が贈られた後、お一人ずつ今を迎えた胸のうちをご挨拶いただいた。村岡会員からは『与えてもらうばかりで、自分がみなさんに何も与えず去るのは辛

い。』と、謙遜されたお言葉をいただいたが、私たちが先輩方から、どれほど多くのことを与えられたかは、ここに書くまでもないだろう。武海会員が『中央会は、生涯最良の女性にめぐり合ったような気持ちだ。卒会者の名に恥じないような行動をとっていきたい。』と、今後の抱負を述べられた。私たち現役会員も、“さすが西部青年中央会”と言われるような活動を、これからも心がけたい。

後次の懇親会場には、卒会を祝い、たくさんのお花が飾ってあった。卒会された4名のみなさんの人徳の厚さを改めて思い知らされることとなった。

武海会員、中原会員、金田会員、そして村岡会員、長い間本当にありがとうございました。卒会されても“青年”の心を忘れないであらうみなさんの益々のご活躍を、心から祈念しています。



Congratulations.



事前作業風景



選手のために心をこめて



トライアスロン参加選手感想



宮崎大介選手

今年、台風の影響でデュアスロンになってしまい、正直いつもよりきつかったです。自転車の距離も半分に短縮されたこともあり、スタートから飛ばす選手が多く、私もいつの間にかそのペースに巻き込まれてしまいファーストランから足が痙攣してしまいました。僕の場合、普通は骨でも折れない限り痙攣くらいでペースが落ちるということはないのですが、やはり二度目のランはきつく、自分の足が変な形になってしまい、しかも意思に反してヒクヒク動いているのがわかるくらいきつい痙攣になってしまいました。何度も歩こうと考えましたが、その度に皆さんの声援に励まされ無事ゴールできました。

今年には家族が一人増え、ゴールの喜びも一段と深いものになりました。最後に、悪天候にもかかわらず大会を運営して下さったスタッフ、そして応援して下さったボランティアの皆さん本当に有難うございました。



完走後、愛娘とハイ・チーズ！



～トライアスロンそれぞれの熱い1日～



緊張のスタート前



おつかれ様です!! 行ってらっしゃい!!

第27回 全日本トライアスロン皆生大会

7月15日(日)、台風4号の影響で開催が危ぶまれていた第27回全日本トライアスロン皆生大会。

降りしきる雨の中、745名の選手が参加し無事開催された。

当日は台風の影響で数々の変更を余儀なくされ、選手受付を3時間繰り下げ8時30分から実施。競技内容もスイム代替のファーストラン8.3km、バイクを73kmに短縮(通常145km)、ラン42.195kmのデュアスロンスタイルで行われた。

また今大会は、フィニッシュ地点を皆生から米子市宮東山陸上競技場に変更。マラソンコースも境港市の観光地となった「水木しげるロード」が新コースに設定されるなどリニューアルされた大会でもあった。

今トライアスロンは中央会の公式行事、会員は早朝から皆生海岸のスタート地点に集結した。

新入会員を中心とした応援団が、参加選手である宮崎大介会員と家高謙児理事(中部)に熱いエールを送り健闘と完走の無事を祈った。選手のスタートを見送った後、会員はそれぞれの担当部署へと移動した。

AS部は11時より、ご家族を含む80数名の会員が、「境港市の森AS」に陣を構え選手を迎える準備をした。

往復路の選手が続々来る中、会員及び一般ボランティアが太鼓を鳴らし熱い声援を送って選手を激励した。

選手の中には声援に深々と何度も頭を下げ、涙を流し「ありがとう」と言っていたり、逆にボランティアに労いの言葉をいただいたりした。皆生トライアスロンは、選手・ボランティア・大会スタッフ全体の交流の場所であり、携わった参加者全員の大会だと改めて感じた。

20時40分過ぎ、最終ランナーの女性選手を出迎えたが、残念ながらタイムアップとなり競技終了。しかし拍手は鳴り止まず健闘を称えた。『来年も鍛え直して参加します』と言葉が印象に残った。

片付け後、東山陸上競技場へ移動。各部長の挨拶のあと中田会長ご発声のもと、一本締めで今大会は無事終了となった。会員の顔には、達成感と充実感が伝わってくる笑顔で満ち溢れていた。

トライアスロン大会を終えて



実行委員長
ボランティア部長
武海 章

「いったい、このパワーはどこから湧き上がってくるのだ!!!」

皆生トライアスロンに夢中になった西部青年中央会のメンバーが集結した全体終礼は、深夜にもかかわらず熱気と歓声に満ちていた。

前日からの徹夜組もかなりいたようだが、充実感・達成感でアドレナリンが大量に分泌されているみたいで、全く疲労の色が窺えない。

現役に混じって多くのOB会員の方も、全く違和感無く溶け込んで皆、満面の笑顔だ。西部青年中央会のあるべき姿、進むべき姿がここにある、と感じるのは私だけであろうか?否、そうではな

いはず。

こんなにも多くの会員が、こんなにも力強く支えている皆生トライアスロン。『魅力』は尽きない、まだまだ新しい発見や感動が待っている。

さあ会員みんな、今このときから『アクション』を起こそうではないか!!!

力を合わせて新たな道を切り拓くのだ。この地域の発展のために。

本当にこんな素晴らしい仲間と、こんなにも素晴らしい経験が出来て、私は世界一の幸せ者だと感じる。ただただ皆様に感謝。「ありがとう。」



AS部長
植田寿雄

大会を盛り上げたすべての皆さま。「お疲れさまでした!!!」

コース・人員・天候など、今大会は初めてのことばかりで、苦労された方が多かったと思いますが、何より大会が無事終了できて良かったです。

ASについては、非常に至らない部長に代わって、美女と野郎たちに大いに盛り上げていただきました。

雨天に2時間ポイントに立って無事ASに戻ったら、再度出撃命令を受けた方が続出したこと。

エイドテントで休む間もなく戦士に愛を与え続けた女性たち。そんな中で、あちこちからかかって来る電話だけで表情が仁王のように変貌してしまった、器の小さい部長(←「チキン植田」。一歩間違えたらコントです)。

ASの運営に関しては、盛り上がった半面、いくつか改善していかなければならないところもありましたので、その点は来年以降運営される方に伝えていきたいとおもいます。

「皆さん本当にありがとうございました!!!」



マラソン部長
山根宏典

今回の大会は、マラソンコースの変更もあって『大変忙しい大会』でした。改めて思い起こすと9月から競技委員会が始まり、毎月の競技委員会ではコース変更に関連する事項のオンパレードで、今年はホントに成功するだろうかと不安も覚えました。マラソン部員の熱い思いと行動力で事故も無く乗り切る事が出来ました。大会当日は、マラソン本部にほぼ一人で過ごすという、稀に見るマラソン本部の光景でした。しかし、マラソン部員は当日のクレーム処理等でコースを走り

回りその対応に追われていたようです。これも私の不徳の致す所かなと反省をしました。そして恒例となってしまったビール掛けには、本当にこんなダメ部長を支えてくれた事に心から感謝をしました。

また来年もトライアスロンはやって来ます。部長が変わってもマラソン部の熱い思いは変わりません!マラソン部に、中央会に感謝します。ありがとうございました。



鳥取県中小企業青年中央会第33回通常総会が行われ、東部・中部・西部より多くの会員が集まった。釜田県会長の挨拶で、『早いもので会長という大任を承って一年になり、時間の早さを感じずにはいられない。』『この一年至らぬ会長であった事と思いますが、県出向・会員の皆様のご協力に感謝して、最後の挨拶とします。皆さん、ありがとうございました。』と、挨拶があった。

続いて議事に移り、第1号議案「平成18年度事業報告並びに収支決算書承認の件」、第2号議案「平成19年度事業計画並びに収支予算書(案)承認の件」、第3号議案「会則一部変更の件」、第4号議案「任期満了に伴う新役員承認の件」がすべて満場一致で承認された。田中新県会長(東部)より、鳥取県中小企業青年中央会を東・中・西の各地区の交流の場と考え、『鳥取県は一つ』、この思いの下、『共に感じ、共に感動できる』そんな事業を展開できたらと思います。一年間よろしくお祈りします。」と挨拶があり、鳥取県中小企業青年中央会は新たなスタートを踏み出した。



県青中 通常総会 《【地域貢献】から【共感】へ》

平成19年7月20日(金) コンベンションセンターBIG SHIP小ホール

記念講演に移り、以前西部の例会でもご講演された、岡山県立岡山盲学校前教頭 竹内昌彦氏をお招きして、演題「私の歩んだ道」を静聴した。ご講演の中で、「目の見えない方や、お年寄りなど、ゆっくり待たせてあげて。」という言葉があった。「体の不自由な方が、健常者のように動けないのは、出来ないというよりも、慣れていないという事が多く、慣れるまで待ってあげればずっとたくさんの方が出来るのです。」という先生のお言葉は我々の生活にも当てはめられるのではないだろうか。講演の最後に、ご自身の「歩んだ道」を綴った著書『あの日、あの時』を紹介。アジアの国に盲学校を造る夢をお話しされて講演が終了した。



場所を移して、隣接するレストラン【レポート】にて懇親会が行われ、東・中・西、会員は相互に交流を深めた。西部の松江会員と、飛び入り参加で東部の西根会員による《マグロの解体ショー》があり、捌いた部位を賞品に各地区代表2名ずつで腕相撲大会が行われた。勝った負けた関係なく皆、マグロに舌鼓を打った。なかにはワサビで遊ぶ会員もいたが・・・、大いに盛り上がった。

頬を赤らめた会員たちはもっと親睦を深めようと、夜の街に繰り出したのであった。これからも、田中新県会長の下、我々青年中央会は団結し【共感】を感じていくのであろう。

頬を赤らめた会員たちはもっと親睦を深めようと、夜の街に繰り出したのであった。これからも、田中新県会長の下、我々青年中央会は団結し【共感】を感じていくのであろう。

8月役員会報告

8月定例役員会が平成19年8月1日(水)、米子食品会館にて開催されました。当日の主な議題は以下の通りです。

- ・7月通常総会・卒会式・懇親会報告の件
- ・8月例会の件
- ・その他

※なお、詳細については各委員長までご参照ください。

編集後記

19年度総会及び皆生トライアスロンも終わり、第33期が始動して今期初の広報誌発行の運びとなりました。休むまもなくハンサムの発行に向けての準備が始まっています。今期、広報系の委員会経験会員が多い中、少しでも読み応えのある広報誌制作をと考えています。皆様のお力添えと委員会メンバーの協力のもと一生懸命頑張りたいとおもいますのでご協力、ご指導をよろしくお願いいたします。

朝原 直也



AB型
ビーイング有限会社 取締役 営業部長
宅地建物取引業
〒683-0043 米子市末広町261
TEL 0859-33-1330 FAX 0859-38-1333
(KT) 080-3893-1850
(EM) asahara@beings.co.jp
S44.4.7生

(広報)

H19.07 (H19年度) 入会
(推薦者) 土岐(哲)
高野(真)

〈コメント〉皆様はじめまして。7月から入会させていただくことになりました朝原と申します。

自分が中央会に入会するなんて夢にもおもっていませんでしたが、今回お誘いいただいたのも何かの縁ですし、これを機に付き合いの幅を広め、自己研鑽に努めてまいります。まだまだ世間知らずで至らぬところもありますが、何事にも積極的にトライしていきますので、これからご指導のほどよろしくお願い致します。

8月例会案内

と き：平成19年8月17日(金)
18:30~食事 19:00~開会
ところ：ホテルサンルート米子
講師：(財)鳥取県産業振興機構 池内正彦氏ほか
演題：「鳥取から世界へチャレンジ」(仮)
担当：役員

新入会員

《「ロー」をつなぐ名簿にお貼りください》